

NO. 179

全 仏

8 / 47



(京 都 地 蔵 盆)

財団法人 全日本仏教会

四国大会
十八全日本小僧封会

1972年1月16日発行1部20円

第十九回全日本仏教徒会議 四国大会 部会報告

第十九回全日本仏教徒会議四国大会は昨秋十月七、八の両日、高松市市民会館を主会場に開催された。

全仏加盟の各団体より提案された議案総数十二件は、第一、第二、青年および檀信徒の四部会に付議された。

大会事務担当の組織局においては、事前に大会幹事会の決議に基づき、部会の基本姿勢を次のように決定し、第一日目の総会において発表し承認を受けていた。

即ち、第一部会は議案審議に当って質疑応答に十分な時間を与え、提案者の意図するものが全一仏教的視野の中で、真に具現するに適切な問題であるかどうかを検討する。あるいはまた具体的問題提起の発想から結論迄の姿勢を的確に捉えて基本理念を確立するための部会、所謂「理論部会」とする。

第二部会は、全仏加盟の単位団体が平素個々に実践し活動している事業で、これを全国的に波及浸透させるため、あるいはその事例を発表して他団体の参考に供する等、実践の成果を発表する部会とした。

青年部会および檀信徒部会は、それぞ

れ独立して前述の一、二部会の性格を両有することとしたのである。

十二議案はこの線に添って審議され、何れも部会の承認を得、総会において採択または了承されたのである。

第一部会

部会テーマ

全一仏教運動の高揚

—特に組織の拡充について—

議案第一号 教化組織の拡充について

(神奈川県仏 丸山 日雄師)

全日本仏教会は、宗派・県仏・各種団体によって構成されているが、全加盟団体一丸となって組織活動を活発に行なうことが至難である。しかしながら、時代即応の能動性がなければ、存在意義も稀薄である。

宗派は歴史と伝統を基盤として信者を教化育成し、各種団体は同好者の立場の構成要素にある関係上、何んとしても県仏教会が、全仏の事業推進の起爆薬と成らなければ革新はあり得ない。

交通至便の都市部においてすら未組織

の地域もあり、宗我に囚われて不活発の県仏も無しとしない。この際よろしく大悟して組織を拡充し、積極的に社会浄化運動に邁進しよう。

議案第二号 仏教徒の政治結集組織化の必要性について

(仏教徒政治同盟 渡辺 虚堂師)

仏教徒と雖もその生活の中に政治が深く関連している。仏教精神に則った中道精神を打出して行くことを前提として政治的関心を高め、将来この問題に対する研究機関を設けて仏教徒は弥々結果すべきである。

議案第三号 宗派仏婦と全一仏教運動について

(全日本仏教婦人連盟 山本 スギ氏)

宗派仏婦・地域仏婦はそれぞれ相当以前から結成され持味を生かして活動しているが遺憾ながら協調性に乏しい。

仏婦活動の中心的理念は、何んといっても「家庭の教化」でなければならぬ。信仰を中心とした家庭のあり方、家庭における人間育成が社会教化の基本である。

一例を「家庭の教化」運動にとったけれども、その外仏教婦人でなければ出来ないキメの細かい独特の事業がある筈である。お互いに全一性に目覚めて、その事業に、運動に共同戦線を張って行きたい。

議案第四号 都道府県仏教会の組織強化について

(全仏 桜井 大乗組織局長)

現在、全仏加盟団体として宗派五八、都道府県仏三七、各種団体一八、計一一三団体である。一応数の上では多数であるが、運営上種々不便を感じている。事務局機構、役員構成、機関の検討および新設等によってその内容を強化し、全一仏教運動を更に強化して行きたい。

これについては先般来制度調査会を設けて研究して戴いているが、組織強化のためには特に県仏、各種団体におかれてもそれぞれ検討していただいて、名実共に強力な組織確立に努力されんことを希望する。

第二部会

部会テーマ

仏教徒の社会的活動

—特に実践の成果について—

議案第五号 地方仏教徒大会を開催しよう

長野県仏教会(半田 孝淳師)

戦前より結成されていた県仏の組織を戦後迄早く改組拡充した。里親運動、仏

教婦人会の結成を初め、交通安全運動、青少年対策、老人に対する布教等を行ない、年次大会も盛大に開催している。大阪府仏教会(間野 敬重師)

年に一度在俗の方々を交え仏教徒大会を開いている。昨年は時局問題、地域活動における問題点・寺院経営上任職及び寺族の反省点を討議する外、交通問題、公害問題等仏教徒として社会問題に処すべき態度、方策についても充分話し合った。

岐阜県仏教会(大石 好文師)

本大会のために報告書を作成して参会者一同に配布の後、同様毎年大会を開催している旨の報告があった。交通問題については県警あるいは自動車販売協会等からの資金により、危険な個処に柵を設ける等の街頭運動を展開した。また「お経を習おう」運動等暑中休暇を利用して子供達を教導した。その他、檀信徒研修会も開催している。

静岡県仏教会(田中 亮三師)

毎年一回春季に総会を開催し、前半は戦没者の慰霊祭、後半は講演会、研修会を永い間続けている。目下の運動目標は、県婦人会の開催、会報の発行(毎月)、法人事務の整備、沖繩慰霊塔の復興、国の祝日、寺院行事日における仏旗の掲揚運動(新潟大会に提案)などである。

議案第六号 ぶたがや日本寺の完成に協力しよう

(国際仏教興隆協会 巖谷 勝雄師)

インドのぶたがやに建設中の日本寺は昭和四十五年に国際会館を竣工し、訪印団の宿泊に大変な好評を得ている。目下本堂建設中で、昭和四十七年二月に上棟式、昭和四十八年十二月には完成の予定である。総工費は約五億円で、有力寺院、檀信徒、仏教諸団体その他有力者の御協力に期待している。日印親善に大きな役割を果たす日本寺の建設は、遠い外国における事業ゆえに種々の苦勞を伴っているが、本事業の完成のために浄財を寄進され、今一段の協力を是非お願いしたい。

議案第七号 釈尊御生誕地ルンビニ復興に対する世界各国仏教徒の協力について

(全仏 新聞 信雄国際局長) 曾って、ウ・タント国連事務総長が、ルンビニ園に参詣しその荒廃振りに落胆せられ、早速国連総会に「世界中の仏教徒の手によって聖なる地ルンビニを復興したい」として提案し賛成を得た。ただちに仏教国の大使による調査団を現地に送り、その結果約十億ドルの費用をもって復興することに決定した。設計については光栄にも我が国建築界の大家丹下建三氏にウタント事務総長より直々の依頼があり、丹下氏も感激して受諾、マスタープランを作成したところ、ウタント事務総長大いにこれを賞賛し採用に決定したということである。

この聖業に日本仏教徒としても当然協力する責任があるけれども、計画がもつ

と明白になった時点において、各界各層を網羅した委員会を結成する予定である。いずれ具体案が出来上った際には、広く全国仏教徒の協力を懇願したいのでそのおりに是非とも充分なる賛同を得たい。

議案第八号 寺院経営の合理化について

(香川県仏・寺院遵法連盟)

大石 黙宗師)

全国にさきがけて香川県仏会員有志によって寺院遵法連盟を結成し、法人事務指導を適切に行なってきた。中でも寺院所得ないし任職の源泉税の取扱については税務所より公認して貰って、トラブルのない様努力している。全国の県仏の中にはすでにこのような組織活動を行なっているところもあると思うが、未組織の地域は参考にしていきたい。

議案第九号 日韓仏教親善の促進について

(仏教振興財団 摩尼 清之師)

韓国仏教徒の対日感情は未だ全面的に好転していない。日本の仏教徒は、まず両国民間の誤解を除くために努力すると同時に学問の交流、仏書の交換、仏教学者の交流を促進し、日韓仏教親善関係を強力なものにするために努力すべきである。

議案第十号 第十一回世界仏教徒会議を

日本で開催しよう

(東京ブッディストクラブ)

望月 良晃師)

第二回世界仏教徒会議は、昭和二十九

年に日本で開催された。明四十七年五月にはセイロンにおいて第十回大会が開催されようとしている。すでに世界仏教徒連盟からもこの次の第十一回大会は是非日本で開催出来るよう強く要望されている。

この件については全仏事務局も常務理事会に付議したところ「条件がウマク行けば引受けてもよい」と協力的態度に決定していると聞く。第二回大会は戦後復興未だしの折でもあったが、よく協力してあれすの成果を挙げる事ができた。機は熟している。一大雄猛心を奮って開催地引受けの決意をしようではないか。

青年部会

議案第十一号 現情下の仏青活動はいかにあるべきか

香川県仏教青年会(入井 善樹師)

高松市仏教青年会は結成以来八か年を経過した。資金難、人材確保は御他聞に漏れず苦勞の種だけれども、情熱を結果し衆智を集めるところ道は自ら開けて来るものである。現在仏教センター建設運動に挺身しているが、土地は確保できたが資金難に苦慮している。

現情下の仏青活動をみる時、理想的な仏青は、それぞれの寺院毎に檀信徒青年を中心として仏青を結成し、活動することが望ましいのではなからうか。寺院の子弟に若干の在家青年を加えた仏青で

は、定着性と弛まざる向上性に乏しくなるのは、単に資金難、人材難を解決しただけで打破できるものではない。

香川県仏教青年会（瀧口 信行師）
これから結成される仏青は、何事にも能動的に青年らしく先手先手と進んで行くべきではなからうか。守る仏青ではなく、作って行く仏青でなくてはならない。

―右の二者発言をタタキ台として討論に入ったが、仏青は現実社会の直視、情報や意識の把握がまず何よりも必要ではないかといった発言の末、年一回仏青代表者の全国大会を全仏の名のもとに開くことを付帯決議した。―

檀信徒部会

部会テーマ

檀信徒の使命について

議案第十二号 檀信徒は団結しよう

（香川県檀信徒会 井上 潔氏）

人間疎外の風潮は、核家族の増加と、仏檀のない家庭を生ぜしめている。日本には宗派はあっても宗教がない、仏教がないといわれる所以も、これ等の風潮に対する適切な対応策に乏しい日本仏教界の責任でもある。今や、住職・寺族・檀信徒は一体となって、正法護持・濟世利人のために活動すべきである。

このため、四国四県は勿論、全国に檀信徒会の結成を推進すべきである。―続いて各地檀信徒会の現況報告があ

った。―

岐阜県檀信徒会（若染 一雄氏）
昭和四十二年に第十四回全仏大会が開催されたのを契機に発足した。現在会員数は十一万五千世帯である。
主な活動としては、「袈裟かけ運動」「お経を習おう」運動などを展開して

いる。
新潟県檀信徒会（春日 浩三師）
昭和四十五年、第十八回全仏大会を契機として結成された。

掲示伝道運動、会員証（ステッカー）の作成運動などを行なっている。

「心」を中心に人間の生命を探求

日本仏教文化会議二十八・九日箱根で

来る八月二十八・九両日、国際仏教交流センターとの共催、読売新聞社後援のもと、昨年に引きつづき「生命科学と仏教」のテーマで開催される。

今年には特に人間を他の動物から著しく区別していると思われる精神活動について、科学的な見解と、仏教あるいは哲学的な見解を取り交わせて、人間の生命とは何かをより多く理解していく。

参加者は次の通りだが、傍聴を希望される方は、全仏組織文化局に照会して参加することが出来る。ただし、会議場の関係から多数は無理。

開催日時

八月二十八日（月） 正午より

八月二十九日（火） 正午まで

会場

箱根仙石原「ホテル湖尻富士見荘」

研究課題

一、心に関する科学的見解

基調講演 若林 勲 講師

― 生理学者として ―

二、心に関する仏教の見解

基調講演 玉城康四郎 講師

参加者（順不同 敬称略）

宮本 正尊 日本仏教文化会議々長、駒沢大客員教授

羽溪 了諦 同副議長 元竜谷大学長

西 義雄 同 東洋大名誉教授

久保田正文 同

江上不二夫 三菱化成生命科学研究所 所長

若林 勲 東京医科大教授

沢瀉 久敬 南山大教授

千谷 七郎 東京女子医大教授

堀 一郎 成城大教授

秋重 義治 駒沢大教授

鎌田 茂雄 東大助教

佐伯 真光 相模工大助教

佐藤 密雄 仏教大教授

玉城康四郎 東大教授

花山 勝友 武蔵野女子大助教

福原 亮敏 竜谷大教授

武藤 義一 東大教授

勝又 俊教 大正大教授

森 武三郎 横浜市立大講師

塩入 亮達 大正大教授

運営委員

金岡 秀友 東洋大教授

真溪 義貫 全仏文化専門委員長

藤吉 慈海 花園大教授

雲井 昭善 大谷大教授

摩尼 清之 全仏文化専門委員

白川 良純 同

主催団体側

星谷 慶縁 全仏理事長

麻布 照海 〃 事務総長

新聞 信雄 〃 組織文化局長

岡野 正道 国際仏教交流センター名 誉会長

岡野貴美子 同 副会長

岡埜 輝勝 同 理事長

おことわり

本誌六月号を休刊しましたこと遅くなりましたがご了承ください。

全仏事務総局人事(七月一日)

庶務部長 阿部 顕瑞(曹洞宗) 退職
 " 和田 龍宏(") 新任
 関西事務局長 芝原 郷音(本願寺派)
 事務総長 加納 宗准(大谷派)
 組織部長 白幡 憲佑(浄土宗)
 国際部長 山家 恵誠(日蓮宗)
 教化部長 後藤 純一(妙心寺派)
 審議部長 北島 経昭(本願寺派)
 総務部長 武内 了真(大谷派)
 主 事 八橋 秀雄(浄土宗)
 " 小泉 宗和(本願寺派)
 " 厚雄(本願寺派)
 事務局 京都市下京区堀川通
 浄土真宗本願寺派宗務所内

事務総局録事(七月)

四日 除英姫女史仏教懇談会(東京本願寺)
 八日 仏教鎮仰会「都民益まつり」(小沢部長出席)
 八日 一全仏「七月号発送」
 十二日 除英姫女史京都各山参拝
 十三~十五日 盆休業
 二十一日 局内会議
 " 関西事務局長芝原事務総長ら来局
 " 新旧部長歓送会
 二十二日 「全仏」八月号原稿締切
 二十八日 税制特別委員会

暑中見舞

真言宗 智山派
 総本山 智積院

京都市東山区東山七条
 ○七五(五)五三六一代

管 主 長 竹村 教智
 宗務総長 田中 隆恵
 法務部長 西田 隆演
 教化部長 松平 実禅
 総務部長 別所 弘因
 教学部長 高井 隆秀
 宗務所長 小宮 勝憲
 張所長

全仏推奨 安全焼香台 (屋内用)
 線香(ローソク)完全燃焼器 (墓地用)

お寺を火災から守りましょう!!
 線香(ローソク)完全燃焼器、(墓地用)でお寺も檀家もみんな揃って一安心! 安全焼香台(屋内用)もあります。
 製法 実用新案公告 34188号
 製品 実用新案特許 出願受付 昭46-92325号
 ご一報下されは直ちにカタログを送付致します
 特約店募集中
 (〒460) 名古屋市中区大須三丁目39番33号

全国総発売元 金 合資会社 梅金商店

TEL 名古屋<052>241-0901代

狩野常信画山水彩色絹本綴子表 二十万円
 谷文晁画並讀水墨絹本絹表 三万円
 頼山陽書紙本綴子表 三万円
 大徳寺大綱画並讀紙本太桂装春日軸美品 三万円
 閻魔大王図極彩色紙本綴子美品 三万円
 大雲祖海書般若心経書紙本紙装 四千元
 北野元峰一行書紙本紙装 八千元
 送料実費不向返品可詳細乞照会
 いわき市上遠野局区 東光寺
 振替郡山三八一九番

仏跡参拝の千代田トラベルが贈る.....

◎各国合同成道会インド仏跡参拝団

昭和47年11月29日~12月16日
 主催 (財) 国際仏教興隆協会
 参加費用 345,000円

◎セイロン新春の旅

昭和47年12月28日~1月7日
 主催 (株) 千代田トラベル
 参加費用 27,5000円

昭和48年2月

ポロブドール探究の旅
 (企画中)

国際旅行業協会会員
 運輸大臣登録 一般154号

株式会社 千代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
 電話407-3612(代)・400-5100 郵便番号 107

影印本

秘蔵・韓国々宝を初めて全巻刊行！

世界各国より度々出版を試み許可されなかつた韓国海印寺秘蔵の高麗大藏經の経板、八万余枚の影印製本を可能とした仏教学界の至宝です。

高麗大藏經

寺宝に／学究の座右に／寺院の寄贈に……

- 七百余年を経た古典
- 超宗派の原典
- 世界唯一の経板による
- 全四十五巻・完璧な集録
- 写影であるから一字一句誤りがない

(造本・体裁)

縦 37cm 厚さ 7cm
 横 27cm 重さ 7kg
 平均 1,150ページ

(ご要望に応じ、カタログをご送付致します)

アジア文化事業株式会社

東京都新宿区西新宿8-3-31 / TEL (03)371-0125-6